

第九たいはず *Beethoven*

No.34 2017.2.16 通刊1224号 担当 motokyuta

ホームページ: www.takasaki9.com メールアドレス: takasaki9@myad.jp

〒370-0863 高崎市聖石町9-13(赤羽方) TEL/FAX:027-322-0996 緊急 090-1828-8052(小野里)

県外から嫁いで来た筆者は、上毛かるたの“そろいのしたくで やぎぶしおんど”が初めて耳にした“八木節”ということばでした。高崎に来て21年、八木節が群馬の歌で、そしてカッコイイ！と新たな発見です！手拍子・足拍子もカッコイイ！頑張って覚えましょう！！

◆ 先週のおさらい

♪八木節♪

- ・P12 19小節のフォルテに向かって18小節のクレッシェンドをしっかりと意識する。
- ・P15 女声 55小節1拍目アクセントつける。女声は男声を聴く。
女声 57小節2音目アクセントつける。
- ・P16 79小節 フォルテはユニゾンになり迫力あるように！大きさを覚えること。
- ・P18 男声 110小節、P19 114小節の da da は太鼓のイメージでハッキリと。
- ・P19 男声 112小節2音目アクセントつける。
122小節 sub mp(スビト メゾピアノ)の訂正。
poco a poco cresc.(だんだんクレッシェンド)はそのまま。
134小節のフォルテ、139小節のフォルテッシモに向かってだんだん大きく。
- ・P20 最後の ha! を言った後すぐに“もっと〜”と入る。ページをめくっていると遅れてしまうので、『このさき“もっと”と歌う』と記入しておく。
- ・P24 最後の手拍子・足拍子は、まず手拍子と ha! を合わせる練習をしてください。

♪ハバネラ♪

- ・P13 3段目全パート “こがれる” は、しっかりとスタッカートで！
- ・P14 1 段目3小節 全パート “あたしに” もスタッカートで！
全体“ハバネラ”のリズムの乗って歌いましょう♪

♪闘牛士の歌♪

- ・P42 上段 3小節目 9 小節目 エスカミーリョ登場の前に歓声を上げる。

◆ オペラ「蝶々夫人」に出演して

ソプラノ 飯島法子

2月4日、高崎音楽センターに於いて、笈田ヨシ演出、中嶋彰子主演、全国共同制作プロジェクト、プッチーニ歌劇「蝶々夫人」に出演しました。笈田さんは演劇的ともいえる斬新な演出で、合唱団員といえど、演技指導もあり、歌以上に大変でした。今回のオペラ参加により、再認識したのは「オペラって、総合芸術なんだ！」ということ。オペラの舞台を見ていると出演者とオーケストラが視界に入る程度。でもその華やかな舞台の裏で、実にその何倍もの人々が綿密な計画のもと、いい作品を作り上げようとそれぞれプライドと情熱をもって仕事をしていました。そしてその動きの素晴らしいこと！

オペラは音楽、美術(舞台装置、照明、衣装等)文学(台本、歌詞)演劇(演出、演技)、舞踊など様々な要素の融合、まさに総合芸術なのです。音楽と同時に様々な芸術が展開されているという、すごい！ものを観ている訳です。(だからオペラのチケットは高いワケね…)

そして、ソリストの身体全体が楽器のように響き「歌声がオーケストラを超えていく」さまに感動。あたりまえだけれど、力で歌っても、声は飛ばない…のだなと。

とにかく色々な人に出会い、たくさんのことを体感でき、勉強になりました。

メイコンではこの高崎第九合唱団もオペラ「カルメン」を上演です。今度は、この第九の素敵な仲間たちと、歌う楽しさを味わいながら素晴らしいステージを作っていきたいと思っています。

◆ 三枝成彰著「大作曲家たちの履歴書」③Bach 赤羽洋子先生

Bach は日本語では小川さん。あんなに素晴らしい曲を数限りなく書いて「音楽の父」と言われているので、大きな川、大川さんの方が相応しい気がします。

生年月日 1685年3月21日(現在332歳)アイゼナハ(ドイツ)

没年月日 1750年7月28日{267年前死亡}ライプチヒ(ドイツ)

享年65歳 白内障による視力低下に苦しみ手術を受けたが失敗それが原因で脳梗塞により死去

人 種 父親レアンブロジウス(ドイツ人)母親エリザベート(ドイツ人)

容 姿 突き出た下顎、高く大きな鼻、大柄

性 格 職人気質、頑固、勉強家、理性的、

好物・趣味 読書、酒、煙草、コーヒー

友人関係 音楽を通じての付き合いが殆ど

特 徴 心に響く音楽を作った最初の人

恋愛関係 精力的だが浮いた話は皆無。女性には余り興味を示さず、Bach の永遠の憧れの対象は{神}だけ

配偶者 初婚マリア(子供7人)再婚アンナ(子供13人)合計20人の子供

収 入 沢山作曲し、オルガニストとしても有名、弟子も沢山でかなりの高収入だが20人の子供の教育費用がかさみ質素倹約に徹した。かなりの「しまりや」で五線紙まで無理矢理詰めて書いた。収入額については不明。

尊敬する作曲家 ヘンデル「音楽の母」2人は互いに意識しあっていたが生涯一度も会えなかった日本で考えると元禄徳川綱吉、不評をかった「生類憐れみの令」が發布された時代。赤穂浪士討ち入りでの大石内蔵助の息子主税と同世代。Beethoven や Mozart がウィーン等他の国に仕事を求めて旅をしたが Bach はドイツから一步も出ないでローカルに身近に生きていた。生涯海を観た事も無かった。1曲もオペラを作曲しないでひたすら確実にお金になる宗教曲を手掛けた。しかし「マタイ受難曲」は今でも西洋音楽の横綱的な評価を得ている。

◆ 『ヴェルサイユ宮殿《監修》マリー・アントワネット展』 ソプラノ 本木ゆうこ

六本木ヒルズタワー52階『森アートセンターギャラリー』で開催している『マリー・アントワネット展』を鑑賞して来ました。平日なのに大変な混雑で、改めて「マリー・アントワネット様」の日本での人気を痛感しました。言わずと知れた、フランス革命で断頭台の露と消えた“フランス王室最後の王妃”。私も漫画「ベルサイユのばら」を愛読し、映画も宝塚も観ている大のアントワネット様好きですが、肖像画などの絵画、食器のコレクション、宮殿の部屋を飾る豪華なタペストリーなどなど知らないこともたくさんあって、新しい発見がありとても楽しい時間を過ごせました。彼女がヴェルサイユ宮殿で過ごしたお部屋を原寸大で展示してあり、お客さんみなうっとりな感じでした(^ ^)中でも、彼女がギロチン台に上がる直前まで履いていた靴が印象的で、しばらく立ち止まって見入ってしまいました。今までのきらびやかなものとは違い、粗末なのですが小さくてかわいくて…どんな思いで自分の波乱の人生を受け入れていったのだろうと思いを馳せておりました。今月26日まで開催中です!!もし、観たわよーという方がいらっしゃったら声かけてください!うっとり話で盛り上がりましょう。

